

Welfare [ウェルフェア]

2022

69

2023年度 社会福祉助成事業実施要綱

CONTENTS

P2 2022年度社会福祉助成事業助成一覧

P4 2023年度社会福祉助成事業実施要綱

P6 くっきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業成果報告~

障害者支援セミナー「どうしたらいいの 高次脳機能障害編」
社会福祉法人 明光会(静岡県)

困難を抱えたこどもを支えるための「みんなのつながるセミナー」
特定非営利活動法人 浜松NPOネットワークセンター(静岡県)

介護予防運動の普及活動をしつつ、スタッフのスキルアップを図り、
指導スキルを身につける事業
ボランティアむつの会(青森県)

北関東自立援助ホームを対象とした研修
茨城県自立援助ホーム協議会(茨城県)

P14 書き損じはがき収集ご協力をお願い

P15 福祉の共済コーナー

2022年度 助成金交付団体決定

2022年度の助成金交付先は、研修事業と研究事業を対象として、37団体に1,430万円の助成を決定しました。今年度の公募においては、北海道から沖縄まで多くの社会福祉法人やNPO、その他任意団体等からコロナ禍にもかかわらず充実した内容の案件を多数いただきました。また、アジア福祉助成についても5団体に144万円の助成を決定しました。

2022年度 助成先一覧

1. 社会福祉助成事業

A. 研修事業 33団体 助成額: 1,240万円

都道府県	団体名	事業名
北海道	特定非営利活動法人 コミュニティシンクタンクあうるず	第9回ソーシャルファームジャパンサミット
北海道	特定非営利活動法人 Rumah kita	重心児者へのアイトラッカー・支援機器活用研修会(仮タイトル)
青森県	特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会	自主製の商品力・販売力向上研修
宮城県	社会福祉法人 東北福祉会	介護現場における認知症の人の意思決定支援
宮城県	特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘	子どもと関わる大人の現場ですぐ役立つ研修会
栃木県	特定非営利活動法人 そらいろコアラ	妊娠・出産・子育ての無料LINE相談窓口「コアLINE」の相談員研修
東京都	社会福祉法人 いのちの電話	ボランティア相談員になるための研修(養成研修)
東京都	社会福祉法人 東京コロニー 東京都葛飾福祉工場	在宅就労セミナー2022～多様化する在宅ワークと在宅就業支援制度の活用～(仮称)
東京都	一般社団法人 CIS	space kid's Carnival
東京都	特定非営利活動法人 支えあう21世紀の会	障害があっても、高齢になっても地域で安心して楽しく暮らすために…医師・当事者による手術報告と懇談
東京都	特定非営利活動法人 調布心身障害児・者親の会びいす(就労継続支援B型事業所)	・講演会 講師:高山直樹東洋大学教授「障がい者の地域生活支援」(仮称) ・講習会 当法人嘱託医藤枝誠医師「障がい者とのかわり方」(仮称)
東京都	ゆめ旅KAIGO!!フォーラム実行委員会	ゆめ旅KAIGO!フォーラムVol.7オリバラのレガシーを次世代につたえるために
神奈川県	特定非営利活動法人 ARCSHIP	真のごちゃまぜプロジェクト・知ることからはじめよう
岐阜県	一般社団法人 サスティナブル・サポート	就労支援サービスの支援力向上のための研修
静岡県	社会福祉法人 天竜厚生会	社会福祉法人天竜厚生会 実践発表会
静岡県	社会福祉法人 明光会	障害者生活支援シンポジウム
愛知県	社会福祉法人 AJU自立の家	感染症対策の強化・感染症の業務継続計画(BCP)策定における研修事業
愛知県	特定非営利活動法人 ファミリーステーションRin	子育て支援者養成講座および子育て講演会
愛知県	愛知県重度障害者団体連絡協議会	東京オリバラから学ぶこれからのバリアフリー 連続研修事業
滋賀県	社会福祉法人 びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター野洲	重症心身障害児者施設における口腔ケアチーム立ち上げに係る『口腔ケアコンサルテーションプログラム』の活用

助成先の研修会・講習会の様子



(社会福祉助成・アジア福祉助成)

都道府県	団体名	事業名
大阪府	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪	もっと知りたいベトナムのこと～介護現場を共に支える仲間を理解するために～
大阪府	特定非営利活動法人 ジェイズ・マス・クワイア	精神障害者と家族のための回復コンサート
大阪府	特定非営利活動法人 南大阪サポートネット	ひきこもりの若者支援のための「対人援助基礎講座」
兵庫県	特定非営利活動法人 萌友-for you	福祉事業所のモノ作りのためのイラストレーター研修
兵庫県	神戸市立科学技術高校	海外での車いす修理活動及び家庭訪問
島根県	えくぼ	えくぼ ゆめ・子ども交流発表会2022
広島県	特定非営利活動法人 心の絆ネットワーク	心の絆フォーラム「後見人は誰になる？」開催事業
香川県	社会福祉法人 洋々会	あじの里異世代交流と介護予防事業
高知県	TOMOはうす	アーリーバードプラスプログラム
福岡県	一般社団法人 久留米健康くらぶ	認知症介護者支援3本柱の研修事業
熊本県	市民ボランティア団体 くまらっぷ+	有明地域におけるメンタルヘルス向上のためのWRAPプログラムの開催事業
沖縄県	社会福祉法人 西原町社会福祉協議会	地域人材発掘事業
沖縄県	一般社団法人 みらい	一般社団法人みらいの研修における講話

B. 研究事業 4団体 助成額:190万円

都道府県	団体名	事業名
北海道	特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	ピアスタッフによる当事者性を活用したひきこもり支援拠点運営事業
東京都	社会福祉法人 東京栄和会なぎさ和楽苑	家族介護者支援ネットワーク構築に向けた具体的実践
東京都	公益財団法人 日本チャリティ協会	パラアート(障害者アート)国際交流活動事業
東京都	一般社団法人 日本車椅子シーティング協会	世界保健機関の車椅子関係資料翻訳事業

2. アジア福祉助成事業

国	所属	事業名
フィリピン	バハイ・トゥルヤン財団	新型コロナの影響を受けた家族のエンパワメント
タイ	バーン・サバイ・ヘルス・センター	長期化するコロナ禍におけるバランスの取れた食事とセルフケアのサポート
タイ	若者のためのルアム・ミット財団	障害児の職業訓練
スリランカ	シッタータ児童発達財団	「スマイル～バック・トゥ～ライフ」学習障害に苦しむ子どもたちの識字技能の向上
インドネシア	光の地域福祉財団	所得創出とソーシャルサービスの提供、および子どもたち/成人/高齢者の健康増進

助成先の研修会・講習会の様子



社会福祉助成事業 実施要綱

申請期間:2022年11月1日~2022年12月15日

2023年度日社済「社会福祉助成事業」のご案内

公益財団法人日本社会福祉弘済会は、少子高齢化が進展し、多様化する福祉需要のなかで社会福祉の向上を目指した“研修事業”や“研究事業”に助成することにより、豊かな福祉社会の実現に寄与することを目的といたします。

2023年度も下記の通り、社会福祉関係者(社会福祉施設等社会福祉事業に従事する方々等)に係る研修・研究事業に対して、公募による助成事業の募集を行います。

1 助成対象事業と助成対象経費

【研修事業】

①対象事業

- 福祉施設職員の方などを対象としたケース

福祉施設職員等が幅広い視野と専門性を持って福祉サービスの支援業務向上に携わるために実習する研修事業

- 地域住民の方などを対象としたケース

福祉サービスのあり方や専門的知識・技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業(研修会、セミナー、講演会など)

②対象経費

- 講師謝金・交通費・宿泊費・会場費・報告書作成費

【研究事業】

①対象事業

- 福祉サービスの向上等を目的とした先駆性ある事業の実践を通して行われる研究事業

- 社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研究事業

②対象経費

- 研究事業費・調査経費・謝金・原稿料・報告書作成費

2 事業実施期間と助成金額

①事業実施期間

2023年度(2023年4月から翌年3月末)中に実施される事業

②助成金額

1件(1団体)あたりの上限額50万円(総額2,000万円以内)

※助成対象経費合計の80%以内かつ50万円以内となります。



3 申請条件

- ①申請団体は社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体などとしします。(申請は1団体、1事業としします。)
- ②法人格のない任意団体、グループは申請書下段に市区町村社会福祉協議会の推薦を得て、申請書をご提出ください。
- ③反社会的勢力及び反社会的勢力と関係すると認められる法人、団体からの申請は受けいたしません。
- ④助成対象となった場合、団体名、代表者氏名、所在地、事業内容、助成金額等を公表いたします。また、実施事業に参加もしくは事後に訪問することがありますので、ご了承の上お申し込みください。

4 申請方法

- ①申請書 2022年9月中旬以降に、日本社会福祉弘済会のホームページ(<https://www.nisshasai.jp/>)をご覧ください。申請書用紙等はホームページからダウンロードの上、ご使用ください。
- ②申請期間 2022年11月1日～2022年12月15日
- ③提出先 下記アドレスに申請書を添付のうえ電子メールにて申請してください。

E-mail : jyosei@nisshasai.jp

※申請方法についてご不明な点があればご相談ください。 TEL:03-5858-8125

※申請書に記載されている個人情報は本事業の選考に関わる業務のみに使用し、それ以外には使用いたしません。



助成要綱のページ

5 添付資料

申請時に下記資料をご準備ください。必要に応じてご提出いただくことがあります。

- ①申請団体の定款(任意団体は規則、規定)
- ②申請団体紹介パンフレットや団体発行の機関誌など
- ③申請団体の直近の事業報告、決算書
- ④申請団体の役員(会員)名簿

6 審査と結果通知

- ①申請案件は予備審査後、選考委員会の選考を経て、理事会(3月開催予定)で決定します。
- ②選考結果は採否に関わらず決定後、各申請団体にご連絡いたします。(2023年3月下旬予定)
- ③申込み書類は返却いたしません。

7 事業完了報告書の提出

助成事業終了後1ヶ月以内に、事業完了報告書をご提出ください。

※事業完了報告書の作成要領は、助成決定時にご通知いたします。

●助成事業成果報告

障害者支援セミナー

「どうしたらいいの 高次脳機能障害編」

社会福祉法人 明光会 障害者支援セミナー実行委員会
理事長 寺田 千尋

1. 団体の紹介

昭和35年創立の知的障害者支援施設。60余年の歴史を持ち施設入所支援から生活介護や就労支援の通所事業所、グループホームを運営するほか相談支援部門として静岡市委託相談、特定相談、障害児相談支援、障害者就業・生活支援センターも運営している。

高次脳機能障害の支援普及事業は県の委託で10年前より行っている。

近年は静岡市中心部にグループホームを開設したり駿河区、清水区にも事業所を展開するなど事業拡大にも積極的に取り組んでいる。



2. 助成事業概要

令和4年3月29日(火)午前10時～正午、開催しました。実施目的は以下の通りです。

「高次脳機能障害」については支援機関の増加や家族会の活動の活発化で障害についての基礎知識や支援の方法を学ぶセミナーのような機会は増えてきたと思います。しかし障害当事者や家族からすると障害名を聞いた時にまずどうすればいいのかがわからなかったり障害の特性を理解できなかったりで支援機関に繋がるのが遅れることが多いのが現状です。

そこで今回は静岡市における高次脳機能障害の相談の実情、高次脳機能障害と聞いた時にどうすればいいかを高次脳機能障害に詳しい城西クリニックの杉山育

子副院長とのトークセッションと明光会相談支援部門の職員が演じる劇によって明らかにしていこうとするものです。

3. 事業の成果

「障害者支援セミナー」当日は新型コロナウイルスの蔓延防止の観点から集合研修とはせずZoomを利用してのオンライン開催としました。



目に見える成果としては今後の展開によって出てくるものと思われませんが支援機関としてはいろいろな気づきがあったとおもいます。準備段階で城西クリニックの担当者との打ち合わせのなかで相談機関が医療機関との関係を普段から築いておくことの重要性、医師が普段どうしているのか、あらためて気づかされた思いがしました。また劇のシナリオを作成する段階では高次脳機能障害と診断された当事者や家族の行動の特徴や受容の段階によっての心の動き相談が重要だと気付くまでの「どうすればいいの?」という不安など普段の相談支援からはなかなか気づきにくい具体的な場面を想像することができたことは大きな成果だったと言えます。演ずる段階では当事者、家族、医師、支援者それぞれの立場になって考えながら演じなければならぬためそれぞれどういう気持ちなのか、どうしたいと思うのか、どういうことが不安

なのかよりいっそう理解しようとする気持ちになりました。相談の場面では普段から「利用者相談者、家族の立場に立って」とよく言われることですがなかなか難しいことです。役割を演ずることがこれほどリアルに「利用者、相談者、家族の立場や気持ち」を感じることができるのか驚きでした。

相談支援機関や相談担当者にとってこのような経験ができたことは今後の相談の場面で生きてくるものと思います。相談者や家族にも良い結果をもたらすことができると思います。



4. 成果の広報・公表

「障害者支援セミナー」開催当日は静岡新聞社の取材があり翌3月30日付け朝刊（静岡中部版）にて広く報道されました。高次脳機能障害の支援について静岡市ではどのようにおこなわれているのか、相談につながるまでにはどういう過程を経ているのか多くの市民に紹介されたものと思っています。今後の成果の公表としては主催法人である社会福祉法人明光会のホームページで紹介を行います。今回はZoomでの開催となったため高次脳機能障害の支援機関を対象として当日の内容（録画）をオンラインで配信を行い多くの支援者にご覧いただく予定であります。一般市民を対象としたより広範囲の配信については城西クリニック杉山医師の承諾を得られれば行っていきたいと考えています。

5. 今後の展開

「高次脳機能障害支援普及事業」は、今年度も静岡県から委託を受けている事業ですので引き続きコンパス北斗で相談に乗っていくこととなっています。相談員にとって今回のセミナーで当事者や家族、支援者を演じたことで従来よりなお一層当事者や家族の立場に立った相談支援ができるようになると思います。またこの助成事業をきっかけに城西クリニックだけでなく市内の医療機関とも連携を構築できるように行動していきたいと思っています。

今まで支援事例を文書で記録することはしていましたが今回劇のシナリオを作ったり演じたりすることでその事例についてより深く理解することができる、当事者や家族になりきることで文書では表現しきれない不安感を理解することができることに気が付きました。そこで今後は好事例や困難事例についてもシナリオを作り役割を演じよりリアルな劇としても残しておき、相談担当者の教材として活用していきたいと思っています。

静岡市圏域で行っている高次脳機能障害の勉強会などでも資料の1つとして活用を考えていきたいと思っています。

●助成事業成果報告

困難を抱えた子どもを支えるための 「みんなのつながるセミナー」

NPO法人 浜松NPO ネットワークセンター
代表 井ノ上 美津恵

1. 団体の紹介

浜松NPOネットワークセンター（通称Nポケット）は「こうなったらいいな」の想いや課題解決の様々な方法が集まり、多様な人たちの出会う場所です。子ども・障害のある人・在住外国人・高齢者に寄り添い、自立を支え、誰もが安心できる社会を実現するため、近年はジョブコーチ事業や子ども支援事業（学習支援や講演会の開催、フードバンク・フードパントリーなど）を行っています。

2. 助成事業概要

子どもの行動と寄り添い方 講座

①「今、目の前にいる子の『わかった』を目指して～読むことや書くことに困難を持つ子への支援を考える～」

日時：2021年8月1日(日)

講師：井上賞子氏

②みんなのつながるシンポジウム

日時：2021年8月22日(日)

登壇者：井上賞子氏、遠藤雄策氏、笹田夕美子氏

アナログゲーム活用講座

①「アナログゲームで分かる！ 生きやすいコミュニケーション能力の育て方」

日時：2022年2月27日(日)

講師：松本太一氏

②アナログゲームを遊び倒そう

日時：2022年3月13日(日)

登壇者：大隅和子氏、新村奈保美氏、野末洋子氏、山田恭子氏、稲津達義氏

学習支援教室や子ども食堂、高校カフェ、その他発達障害や学習障害といった特性を抱えた子ども達の支援をしている団体の人々が、支援の際により多くの選択肢で支援の方法を考えられるように、またその困難の原因を先入観なく理解出来るように、苦手（読む・書く・聞く・話

す・集団行動など）を抱える子どもへのアプローチの仕方にフォーカスした「子どもの行動と寄り添い方」とコミュニケーションに効果のある「アナログゲーム」の2つのシリーズで2回ずつ講座を行い、支援者同士の交流の場、協力体制構築のきっかけとすることが目的。



3. 事業の成果

子どもの行動と寄り添い方 講座

①「今、目の前にいる子の『わかった』を目指して～読むことや書くことに困難を持つ子への支援を考える～」

特別支援教育士の井上賞子氏より、教育現場で実際に学習に困難を感じている子への支援事例の紹介があり、困難の背景に目を向けること(問題は支援方法にあるという視点)が共有された。視力の悪い人がその人に合ったメガネを使うように、支援もオーダーメイドであるべきで、一人一人に合った支援でなければならない。量を増やしても方法が間違っていれば苦しいだけで、それを繰り返されればやる気がなくなり自己肯定感も低下してしまうとのことだった。約65%が学

校関係者・子ども支援関係者であったため、この考え方の共有は今後教育現場で実践されることが期待される。

②みんなのつながるシンポジウム

井上賞子氏に加え、小児科医の遠藤雄策氏、行動コーチングアカデミー・児童発達支援事業所ハンナに勤務している笹田夕美子氏の3名より「コロナ禍は、こどもたちにどのような影響を及ぼしたか、そのために何か新しいサポートをする必要があったか」「そのサポートに何か課題はあったか。新しい生活の中で、私たちがこどもたちとどう寄り添ったらいいか」「大人たち、社会の大人たちは、どのようにして子どもたちの個性という輝きを見つけ出し、それを守っていくためにどうしたらいいのか」の3点について意見交換がされた。その子の好きな事や物を増やしていく、続けさせてあげること、子の支援だけでなく親の支援の大切さなどを再確認出来るシンポジウムとなった。

アナログゲーム活用講座

①「アナログゲームで分かる！ 生きやすいコミュニケーション能力の育て方」

アナログゲーム療育アドバイザーの松本太一氏より、コミュニケーションの前提となる言葉やルールを、アナログゲームを通して学んでいくこと、発達段階に応じたアナログゲームの紹介がされた。終盤ではルールを守れない子に厳しくしてしまう子についての質問があり、その場合は競うゲームの前に協力して進めるゲームを使用することが提案された。ゲーム中の痲痺に悩む参加者も多く、その解決方法を知れたのは重要なことであった。

②アナログゲームを遊び倒そう

浜松の教育現場でアナログゲームを使い活動している5名を招き、事例紹介を行った。家庭の子育てで使用している講師、中学校で講座を開いている講師、言葉の教室で使用している講師、というようにそれぞれのより具体的な使用例の共有が出来たため、より「自分が使用するとしたら」の想像が出来る講座となった。



4. 成果の広報・公表

8月1日の井上賞子氏の講座へ静岡新聞の取材があり、8月10日に誌面とインターネット上の両方へ掲載されたため県内だけでなく県外からもアクセスがあった。また、当法人の発行しているニュースレター上で子どもの行動と寄り添い方講座の報告を掲載した。アナログゲーム活用講座については、当初対面での講座であったものの、まん延防止等重点措置の延長に伴いオンラインでの開催となり取材はなかったが当法人のホームページでも更新に合わせて成果の広報を行っていく予定である。

5. 今後の展開

この事業を通して初めて当法人の講座に参加した方と繋がることが出来、登壇した講師と参加者が繋がることで、新たな学びの場が生まれることもあった。講座内の質疑応答とそれに対する講師が回答する様子を見ると、現在子ども支援者同士が悩みや相談を共有できる場は少なく、共有出来れば解決出来るだろう問題が多くあることを感じた。近年のコロナ禍で以前は出来ていた講座後の交流会があまり出来なくなっていたが、今後はそんな中でも交流が出来る方法を模索する必要があるだろう。対面での講座の予定であったアナログゲーム講座も、やはりオンラインでの説明では実際に体験するより伝わらない部分が多く、感染状況が落ち着いた際には再度対面で体験する機会を設けられたら、と考えている。同じ立場の人同士が繋がることによって新たな取り組みや解決策が生まれる可能性と、そのための場づくりの必要性が明らかになった事業となった。

●助成事業成果報告

介護予防運動の普及活動をしつつ、スタッフのスキルアップを図り、指導スキルを身につける事業――

ボランティアむつの会
代表 渡部 てつ

1. 団体の紹介

「学ぶ・楽しむ・奉仕する」を基本方針と定め、次の三点を日頃の主要活動としております。①市民講座の開催による啓蒙活動 ②高齢者や障害者等の弱者支援活動（老人施設等慰問活動と介護予防運動の実施）③地域貢献活動（行政主催事業の支援や街路等の清掃活動等）

なお本会は平成30年「むつ市認知症サポート団体」の認定を受け、認知症家族のサポートもしております。

本会は、設立48年の「青森県最古参のボランティア団体」で、令和2年4月春の褒章にて、東北で唯一「緑綬褒章」を受章しております。

2. 助成事業概要

事業企画の背景と目的

厚生労働省の推計では、認知症患者が2025年には全国で700万人を超えるという。つまり65歳以上の高齢者のうち5人に1人が認知症に罹患するとのこと。

当市においても決して例外ではなく、高齢化の急速な進展に伴い認知症、寝たきり等の要介護者が急速に増えつつあります。そうした現況を踏まえ、高齢者の皆さんに「介護予防運動」を習慣化させ、要介護状態になるのを阻止する事は火急の課題であると考え、今回の事業を企画致しました。

事業の具体的内容

助成期間（令和3年4月～令和4年3月）において、介護予防運動の専門講師を招き地域の高齢者に毎週1回（2時間）「介護予防運動」の指導をして頂きました。

なお助成期間終了後においても、事業継続出来る体制づくりをするために、当該期間は私達スタッフの研修期間でもあると考え、講師から介護予防運動のスキルと指導法を徹底的に学びました。

3. 事業の成果

運動メニュー

高齢者を対象とする介護予防運動は、転倒や受傷リスクのない、スローで緩やかな運動が求められます。従ってどうしても退屈な運動になり、飽きられる側面があります。当該事業の実施に当たって、一番気遣ったのはその辺りで、講師には「飽きさせず楽しく続けてもらえる運動」の指導をお願いしました。ピラティスボール、エアロビクスステップ台、床ネット、ボッチャ（室内版ペタンク）等、各種の運動器材を導入して頂き、また器材の使用時には演歌、ジャズ音楽、ポップスなどのCDを掛け、曲に合わせて運動させた事で、皆さんとても楽しく過ごしておりました。なお講師のお話では、音曲に合わせての運動は、前頭葉を活発に刺激し、認知機能低下を阻止する上で、極めて有効との事でした。



参加者の様子・感想

コロナ感染対策上、毎回の参加者数を20名に制限しました。当該事業をスタートして徐々に参加者が増え、

6月にはスタッフを入れると制限枠の20名を超える状況になりました。各人の運動参加状況については、別紙「介護予防運動出欠管理簿」作成し管理をしました。講師が各種の運動器具を導入し、飽きさせない工夫をしてくれたおかげで、参加された皆さんは毎回楽しく過ごされ、一年間を通じ一人の脱落者もありませんでした。なお講師による週1回（ひと月4回）の指導だけで、テーマに掲げた「運動の習慣化」は無理と考え、補完対策として「青森県庁（高齢福祉部）」が制作した「ロコモティブシンドローム防止CD」を譲り受け、皆さんに配布して運動の習慣化を後押ししました。



目標の達成度

高齢者の「ロコモティブシンドローム」防止、ならびに「サルコペニア」の予防が、本事業の主要なテーマでしたが、澁刺と運動している皆さんを拝見していると、確実にそれを実現できたと実感しております。

当該事業でのもう一つの目標は、「助成期間終了後は、介護予防運動の指導が出来るスタッフの養成」でしたが、毎回4～5名のスタッフを運動に参加させた事で、その目標も達成し、今では講師に代わって指導できる状態になっております。

4. 成果の広報・公表

令和3年4月17日発行の「ボランティアむつの会・会報＜VOL3＞」にて、「日本社会福祉弘済会」の助成金で「介護予防運動（無料開催）」を実施している旨を掲載して会員に周知し、参加を呼び掛けました。

また令和3年5月10日、「日本社会福祉弘済会の助成金により介護予防運動（無料）を実施している」旨を、当市の市政だよりへ掲載して頂くよう依頼しました。

本会では、概ね月に一度の割合で「防災講座」や「終活講座」等の市民向け講座を開催しておりますが、各種講座にお集まりの皆さんに、「介護予防運動」の開催を周知し、参加を促しました。

5. 今後の展開

今回の事業を通じて、一般市民へ「介護予防運動の重要性と必要性」を啓発する事が出来ました。また助成期間を通じて、本会スタッフが運動の指導スキルを習得し、今ではスタッフが市民の皆さんを指導できる体制づくりも実現しております。

今後の施策としては、介護予防運動の更なる普及を目指し、「介護予防運動の出前講座」を企画しております。つまり運動の指導を請う団体（町内会、老人クラブ等）があればこちらから出掛けて指導するというもので、近日市政だよりで呼び掛ける予定です。一年に亘り習得した知識を、今度は私達が講師となり、積極的に「介護予防運動の普及役」を担い、貴財団のご厚情を、広く地域に張り巡らせて参ります。

今回の事業活動における一番の成果は、毎回介護予防運動に参加していた数名が、自発的に事業のお手伝いをしてくれた事。つまり当初は「福祉の受け手」だった方々の意識が変化し、「福祉の担い手」になった事を意味しております。考えてみれば、高齢者は誰もが、豊富な経験、知識、知恵を有しており、それを生かす機会を与えてこそ、本当の意味での「高齢者のQOL向上」なのだと思感させられました。

末筆ながらこの度の貴財団のお力添えに、重ねてお礼を申し上げます。

●助成事業成果報告

北関東自立援助ホームを対象とした研修

茨城県自立援助ホーム協議会
代表 黒澤 詠子

1. 団体の紹介

当協議会は、茨城県内の自立援助ホームへの支援と連携を促進し、交流や研修等を行い、理論の蓄積と実践を通し、青少年の自立に寄与する事を目的とする。

事業内容

- ①自立援助ホーム職員及び関係者の資質向上
- ②茨城県・児童相談所・裁判所・保護観察所等との連携
- ③自立援助ホーム入居者又は退所者の交流
- ④自立援助ホーム入居者又は退所者への間接的支援
- ⑤自立援助ホームの発展及び安定した運営に関する活動

2. 助成事業概要

実施目的

1. 自立援助ホーム職員たちが、虐待、特にネグレクトを受けた子ども特有の行動様式に対し、理解を深めること
2. 自立援助ホーム職員たちが、上述の子どもたちに手を焼き、無関心になるなど、マルトリートメントに陥らないよう予防すること

対象者

1. 茨城県内の自立援助ホーム職員
2. 北関東(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県)27ホームの職員

期間
平成30年4月から平成31年3月までの1年間で、講義及び視察14回行った。

内容

1. 茨城大学大学院教育学研究科准教授金丸隆太先生による講義等10回
表題「TF-CBT(トラウマフォーカスト認知行動療法)」
2. 児童心理治療施設 内原深敬察 心理士長 佐名手三恵先生による講義2回
表題「子どもの心理的ケアを行う上で大切にしていること ～児童心理治療施設での心理職としての実践から～」
3. LANS (Life Assist Network Service) 代表 浅井和幸先

生による講義1回、視察1回

表題「一般社団法人『LANS』の活動について」

3. 事業の成果

北関東地域には現在27の自立援助ホームが運営を行なっていますが、自立援助ホームに特化している継続性のある研修会を開催することはありませんでした。そのため、各ホーム職員が専門的な知識を持たないまま手探りで児童支援を行なっている状況が続いていました。近年では、入所児童の中に障害を持つ児童の割合が増加し、支援の複雑化をどのホームも感じていました。そのような背景の中で、毎月一回のZoomによる学習会を初めて開催し、平均30名以上の参加者が専門的な支援方法を学ぶことができました。心理学的専門性のある自立援助ホームに適した内容の学習を行うことができ、支援の質的向上につながりました。今年度は、茨城大学大学院准教授の金丸隆太先生を講師として迎え、認知行動療法に基づく児童へのトラウマケア・児童への適切な対応の仕方を学習しました。各ホーム職員がすぐに実際の児童処遇場面で活かすことのできる知識を得ることができ、日々業務にあたる上で明確な指針を持つことができました。児童処遇のみではなく、職員のメンタルヘルスケアについてもあわせて学ぶことができたため、より良い職場環境にするためにどのようなこと気をつけるべきかも具体的に知ることができました。今回の講習会では、Zoomという技術を使用して遠隔地においても研修の場を確保できることが証明されました。学習にとって一番必要なことは継続であり、今後も自立援助ホーム職員が学ぶことのできる研修会を継続して行なっていきます。

茨城大学大学院准教授で臨床心理学を研究なさっている金丸隆太氏を講師に迎え、自立援助ホーム職員へ向けた勉強会を行いました。この勉強会のテーマは「子どもの心の傷を理解して、適切に関わる」です。ホームには心の傷、いわゆるトラウマを抱えている子が多く、

そしておそらく、誰も気づいていないトラウマもあって、実際には、ほぼすべての子どもが何らかのトラウマを抱えていると思われます。職員が一生懸命に関わっても、反応が素っ気なかったり、反動的になったりする理由のひとつに、トラウマがあります。対人援助の専門家として、熱意を持ち関わるのは当然ですが、同時に冷静に、科学的な知識をもって、効果が証明されているかわり方をすることも重要です。

勉強会では、その知識と方法を、具体的には、トラウマ、認知行動療法、TF-CBTなどについて学びました。講師からは理論や知識を提供して頂き、ホームスタッフからは、実際のホームでの子どもたちの様子について意見交換を行い、勉強会は実践的で子どもの役に立つ内容となりました。

4. 成果の広報・公表

虐待などはトラウマになりえる。そして虐待は、脳にダメージを与える。やる気のなさや、リストカットなどの問題行動は、そのPTSDが要因である。その治療を進めない限り、行動修正プログラムは、効果をほとんど示さない。

また、虐待を受けた子どもは、虐待をした親だけでなく、他の一般の大人も信用しなくなる。どんな良いプログラムを使っても、その子どもと治療者との間に、信頼関係がないと効果は期待できない。時間はかかるが、はじめに愛着関係のゆがみ修正を行いつつ、トラウマからの回復を目指す。そののちにあらゆるプログラムや治療が効果を発揮する。この度の勉強会で学習したことである。

以上のことを、茨城県自立援助ホーム協議会、タムタム、吾が家、ハレルヤファミリー、えがおの家、みらいのHPに当該成果を載せ広報を行う。並行し、配布用報告書を作成し、茨城県や児童相談所に配布する。

5. 今後の展開

令和3年度は、TF-TBC（トラウマフォーカスト認知行動療法）の基礎概念、考え方を1年かけて学んだ。27ホームが対象であったため、多い時には30人を超える参加者がいた。新規ホームや、10年以上運営しているホーム、老舗ホームの参加者もいた。そのため、心理学に対する知識や学ぶ姿勢に大きな隔たりがあった。

令和4年度も引き続き、TBC（認知行動療法）を学ぶ予定である。そして、療法（トリートメント方法）を身につけるために、演習や事例検討を取り入れた勉強を進める。令和3年度の課題を受け、今年度は新規参加者を募集せず、TF-TBCの基礎概念を学んだホーム職員のみを参加対象とする予定である。それにより参加者の能力や動機づけのばらつきを最小限にして、より実りのある勉強会としたい。

以って、茨城県自立援助ホーム協議会に属する会員のキャリアアップを図り、自立援助ホームに入居している子どもたちが、元気いっぱい社会へ巣立っていく一助としたい。



茨城大学准教授 金丸隆太先生によるZoomによる講義の様子

いつでも、誰でも「はがき1枚」から参加できる ボランティア活動。

—「書き損じはがき」の収集にご協力をお願いします—
「空飛ぶ車いす」は、日本で使われなくなった車いすを
日本の工業高校生が修理・再生して
アジアに贈るボランティア活動です。



「空飛ぶ車いす」は、
多くのボランティアに支えられています。

はがき収集 ボランティア

全国の「はがき収集ボランティア」から届けられた「書き損じはがき」を切手に交換し、さらに企業等の協力により切手を現金化して“パンクしないタイヤの購入費用”や“工業高校から国際空港までの車いす輸送費用”に充てています。

修理 ボランティア

工業高校のクラブ活動や有志、生徒会などで車いすの修理を行います。

輸送 ボランティア

ビジネスや観光などでアジア各国を訪問する際に、搭乗機手荷物として運びます。

ご寄付をいただいた皆さま

(2021年1月～2021年12月)

数ある団体の中から当会の趣旨に賛同いただきご寄付を賜りました皆さまに
感謝申し上げます。温かいご支援ありがとうございました。
(敬称略・順不同)

木村 芳江
大池 勝巳
近藤 羽衣子
長崎工業高等学校JRC同好会
兵庫県立相生産業高等学校
兵庫県立東播工業高等学校
米村 寛子
三菱総研DCS株式会社
北海道鶴川高等学校
片山 幸子

NPO法人ワーカーズ・コレクティブたすけあいせや
岩手県社会福祉協議会
志免町総合福祉施設シーメイト
神栖市社会福祉協議会
曲淵 弓
川上 裕子
ジブラルタ生命保険
竹谷 尚人
栃木県立栃木工業高等学校
※匿名希望の方からもいただいております

お問い合わせ
はがき送付先

公益財団法人
日本社会福祉弘済会

〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-32-8
URL ▶ <https://www.nisshasai.jp/>
TEL. 03-5858-8125 FAX. 03-5858-8126



～お客様への想いをより確かなものに～

生命保険信託の取扱いを開始しました！

あなたに代わって、もっと想いをカタチに。
生命保険のお金を誰に、どの順番で、
どのようにお渡しするか託せる「安心」を



生命保険 信託

生命保険信託の2つの特徴

保険金に安心マークを

- 大切な人に分割してお金をお支払いできる
 - 指定した年齢からお支払いを開始できる
 - 受取人の年齢に応じて支払額を変えられる
- 受取人が未成年者・高齢者・障がいのある方など、お1人では財産管理が困難な場合に備える仕組み



末永く想いを繋げる

- 受益者は第一から第三まで設定可能
 - 相続とは違う流れで保険金を残せる
 - 公益団体へ寄付することもできる
- 受取人に万が一の事があった時に備えて、保険金を渡したい人・渡したい順番を指定しておける仕組み



こんな想いや
ご心配はありませんか？

生命保険信託で
解決できるかも
しれません！

夫婦のみ世帯

配偶者の次は自分の両親に
保険金を使ってほしい



お一人で お子様を育てている

幼い子供に多額の保険金を
残すのは不安…



受取人の財産管理能力に 不安がある

受取人が保険金を浪費して
しまわないか心配…



高齢の親が 受取人になっている

両親が高齢なので
認知症などが心配…



お子様に 障がいがある

障がいのある子供に多額の
保険金を残すのは不安…



詳しくは、ジブラルタ生命保険(株) 担当 LC (ライフプラン・コンサルタント) までお問い合わせください。
当社ホームページでのご案内へは、二次元バーコードよりアクセス願います。

(注) 当社は、プルデンシャル信託の信託契約代理店です (信託契約代理業務の種類: 媒介)。信託契約につきましては、当社は、お客さまとプルデンシャル信託との間で契約の媒介のみを担当し、信託契約の引受けを行うのはプルデンシャル信託となります。



「公益財団法人 日本社会福祉弘済会」はジブラルタ生命と提携し「福祉の共済」を推進しています。



くっきり! 福祉の未来形

ニッ シャ サイ 日社済の 主な事業



社会福祉助成事業

公募による社会福祉関係者の研修・研究事業等への助成を行っています。



アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会と連携した福祉の国際協力パートナーの養成と、その活動の支援・助成を行っています。



空飛ぶ車いす支援事業

アジア等の障害をもつ方々への車いす修繕・寄贈を支援しています。



社会福祉関係者の共済に関わる事業

福祉関係者の福利向上のために提携会社を通じて団体扱生命保険を提供しています。



公益財団法人 日本社会福祉弘済会

〒136-0071 東京都江東区亀戸1-32-8 TEL.03-5858-8125 <https://www.nisshasai.jp/>

